



■復刊『雲南』に思う

※本稿は令和6年度 復刊『雲南』（令和7年3月1日発行）に寄稿したものを一部改編したものです。

令和6年度は、本校開校 100 周年となるメモリアルイヤーでした。開校記念日である4月 17 日には、開校当時と同日同時刻に「開校 100 周年記念式典」を開催しました。開校 100 周年記念式典開催に向けては『三刀屋高等学校五十年史』や以後 10 周年ごとに刊行された『三刀屋高校十年史』などを紐解きながら、改めてこれまでの三刀屋高校の 1 世紀に渡る歴史に向き合いながら準備を進めました。『三刀屋高等学校五十年史』をはじめ周年行事ごとに刊行される記念史は、校長の巻頭言から始まり、教育方針、教育目標、教育課程、生徒・授業の様子など校内のことはもちろん、学校を取り巻く環境や社会情勢、地域とのかかわりについてもこと細かにまとめられていて、史実の確認には欠かせない資料です。

一方、生徒会機関紙『雲南』は、生徒会が中心となって編集しているため、開校以来の歴史を生徒目線で捉える構成となっています。生徒・教職員に対する真面目なアンケートや少々だけたアンケート特集、生徒による個性あふれる似顔絵やイラストなどが豊富に掲載されていて、諸先輩方の活気に満ち溢れた“若い力”を感じることができます。その掲載内容には、時代を超えて共感するものが多くあり、時に心が揺さぶられることもあります。

ところで皆さんの中には、この『雲南』が“復刊”と表記されていることに疑問を抱いている方もいるのではないのでしょうか？文字どおり「かつて刊行されていたものが一旦休刊してまた復刊した」わけですが、ここでその歴史を確認しておきます。各号のコメントは『三刀屋高等学校五十年史』より引用したものです。

□学友会誌『雲南』（学芸部発行） *学友会…部活動を中心とした教職員・生徒で構成される会
「創刊号」1927（昭和2）年2月20日発行

校長の巻頭言に始まり、生徒の作文をのせた「文苑」、詩・短歌・俳句を掲載している「詩藻」があり、その他に修学旅行記、学友会各部報、更に「校報」として校内重要日誌を掲載している。『雲南』は学友会活動のみならず、ほぼ学園生活全般について触れ、各種資料の散逸した今日、本校史を物語る貴重な資料となっている。

「第二号」1930（昭和5）年4月20日発行

「第三号」1931（昭和6）年7月25日発行

「第四号」1933（昭和8）年3月25日発行

「第五号」1934（昭和9）年7月20日発行

「記念号」1934（昭和9）年12月25日発行 *開校 10 周年記念

「第七号」1936（昭和11）年5月30日発行

「作文号」1937（昭和12）年2月25日発行

「第九号」1937（昭和12）年6月10日発行

「慰問号」1937（昭和12）年12月10日発行

その内容は、時局を反映して、戦場の兵士にあてた慰問文特集号であった。その巻頭には「貧しき筆ながら 北支の野に奮戦したまふ わが郷土の諸勇士に 捧げまつる」と記されている。紙質も悪く、印刷もガリ版刷りの68頁ほどの小冊子となっている。

この後『雲南』は発行されず、廃刊となった。急迫する物資不足の状況下の不可避の現実であった。『雲南』が生徒会誌として再登場するのは、昭和43年の『復刊第一号』によってである。戦前最後の学友会誌となった『雲南』（慰問号）中の和歌俳句の一部を次に転載する。（紙幅の都合により一句のみ引用）

我も亦千人力の筆をとり思ひこめてぞ力書きけり（3年Tさん）

□生徒会機関紙『雲南』（生徒会発行）

「復刊第一号」1968（昭和43）年2月25日発行

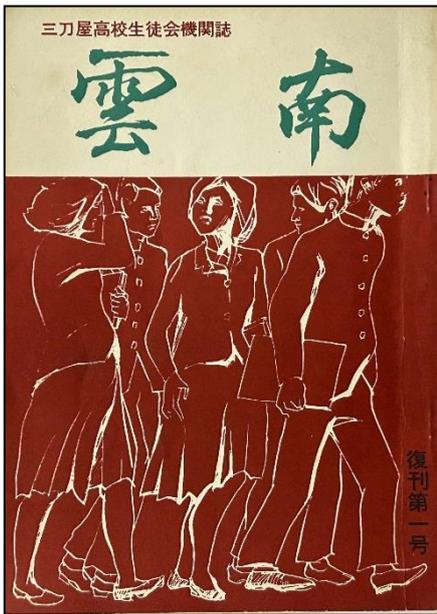
『雲南』（慰問号）で発行が途切れてしまい、以来30年間生徒間の交流を深める総合誌は皆無であったが、42年度生徒会機関誌復刊の機運高まり、43年3月1日「復刊第一号」が発行された。その内容は次のとおりである。

〔特集（「古き校舎の物語る思い出」「生徒会を解剖する」）、クラブ紹介（体育部・文化部）、全国大会記（ソフト部・庭球部）、研究レポート（生物部・社研部）、HRだより〕
以後毎年度この機関誌は発行され、全生徒の相互理解と親睦を深める媒介となっている。編集長を務めたSさんは、編集後記でこう述べている。「放課後になると、生徒会室へ直行（？）そして陽も沈んでようやく帰途に、休みも返上。アー……。溜息。何のため？誰のため？しばし我が青春を疑った。（中略）そして完成！苦勞多いだけに得るものも多し。我が青春に悔いはなかった。」

「復刊第五十七号」2024（令和6）年3月1日発行

「復刊第五十八号」2025（令和7）年3月1日発行

——生徒会機関誌『雲南』には、戦前戦後の各年代を駆け抜けた諸先輩方の“青春の軌跡”が躍動感をもって記録されています。今あなたが手にとっているこの復刊第五十八号もまた、本校開校100周年というメモリアルイヤーを過ごした生徒の皆さんの熱い“青春の軌跡”を伝える貴重な資料となっていれば嬉しいです。



復刊第1号
30年の時を超え生徒会執行部により復刊



復刊第52号 (左上) から第57号 (右下)
表紙も中身もカラー化しカラフルに



復刊第58号
令和7年3月1日発刊の最新号